

令和6年度

事業報告書

一般財団法人 日本交通安全教育普及協会

## I 研修・教育活動

### 1. 交通安全教育指導者等養成活動

- (1) 交通安全教育指導者研修会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) チャイルドシート指導員養成研修会の開催・・・・・・・・・・・・ 3
- (3) 高校生向け自転車安全教育インストラクター認定及び更新講習会の開催・・・・・・・・ 4

### 2. 交通安全教育指導者等支援活動

- (1) 学校における交通安全教育に関する協議会の開催・・・・・・・・・・ 5
- (2) オンラインを活用した全世代向け交通安全教育の拡充・・・・・・・・ 6
- (3) 講師派遣の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (4) 地域提案型交通安全支援事業の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

### 3. 交通安全教育啓発活動

- (1) 高齢運転者及び自転車運転者の交通事故防止を目的とした  
移動型交通安全啓発活動の実施・・・・・・・・・・ 7
- (2) 幼児・児童・生徒及び高齢者を対象にした歩行者向け交通安全講習会の実施・・・・・・・・ 8
- (3) 児童・生徒及び高齢者を対象にした自転車交通安全教室の実施・・・・・・・・・・・・ 8
- (4) 自転車安全利用講習会の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (5) 緊急時の対応に関する啓発活動の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (6) 国際協力による教育普及活動の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (7) 関係機関と連携した交通安全教育啓発活動の推進・・・・・・・・・・・・ 9
  - ①シートベルト・チャイルドシート着用推進協議会の事務局・・・・・・・・・・・・ 9
  - ②交通安全フォーラム推進協議会の事務局・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
  - ③全国交通安全運動への参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
  - ④交通安全ファミリー作文コンクールの実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

## II 調査研究活動

- (1) デジタルマップ作成による、交通安全意識等の定着の調査・・・・・・・・・・・・ 10
- (2) 新潟大学との共同研究による効果的な世代別交通安全教育手法の調査・・・・・・・・ 10

## III 情報収集提供活動

- 1. 月刊誌「交通安全教育」の編集・刊行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 2. ホームページによる情報の発信及び収集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

## IV 教材の制作・普及事業

- 1. 交通安全教育啓発資料・機材の開発及び普及・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 2. 教育啓発資料の監修・指導等の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 3. 児童及び自転車通学者向け高視認性安全服認証及び推奨制度の普及・・・・・・・・ 11

## V 基本財産の運用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

## VI 会議の開催

- 1. 理事会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 2. 評議員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 3. その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

## I 研修・教育活動

交通安全教育の担い手である指導者等の養成と指導力・資質の向上を目的として研修・支援を行うとともに、子供や高齢者、一般市民等の交通参加者を対象に、交通安全意識の向上と安全な交通行動の実践化を図ることを目的として交通安全教育啓発活動を実施した。

### 1. 交通安全教育指導者等養成活動

#### (1) 交通安全教育指導者研修会の開催

交通安全教育に携わる行政担当者、交通指導員等を対象に指導者としての資質向上を目的とした研修会を、内閣府の後援を得て、Zoomを活用したオンラインで開催した。

- ①開催日 令和7年2月18日(火)  
事前動画視聴期間：令和7年1月24日(金)～2月7日(金)
- ②実施方法 Zoomを活用したオンライン研修会
- ③テーマ 「子どもと高齢者に対する効果的な交通安全教育」
- ④内 容 10:00～16:40
  - 講義1「生活道路こそ危ない」  
講師：茨城大学大学院 理工学研究科 都市システム工学領域  
助教 海野 遥香 氏
  - 講義2「交通安全教育の効果と課題」  
講師：帝塚山大学 心理学部 心理学科  
准教授 森泉 慎吾 氏
  - 事例発表動画内容に関する質疑応答  
※事例発表については、発表者側で収録した動画を特設 Web サイトで事前に視聴してもらった。  
事例発表1「交通安全劇 かなわぬ夢」  
発表者：新潟県 聖籠町 生活環境課  
事例発表2「子どもへの交通安全指導」  
発表者：岐阜市 市民生活部 地域安全推進課  
事例発表3「効果的な交通安全教育手法」  
発表者：(一財)日本交通安全教育普及協会
  - 班別協議・全体会
- ⑤参加者 76名

#### (2) チャイルドシート指導員養成研修会の開催

チャイルドシートの正しい知識の定着と使用の促進を目的として、チャイルドシートに関する法的・技術的知識、正しい装着方法など専門的知識を修得した指導者を養成するための研修会を、内閣府、警察庁及び国土交通省の後援を得て、eラーニング方式を活用したオンラインで開催した。

- ①開催日 令和7年3月10日(月)～21日(金)
- ②実施方法 eラーニング方式を活用したオンライン研修会
- ③内 容 ○子どもたちの命を守るチャイルドシート  
講師：埼玉県立小児医療センター 小児救命救急センター 植田 育也 氏
- チャイルドシートの使用義務について  
講師：警察庁 交通局 交通企画課 鳴海 亨 氏
- チャイルドシートの技術基準について  
講師：国土交通省 物流・自動車局 審査・リコール課 角井 繁俊 氏
- チャイルドシートの基礎知識について

講師：(一財) 日本交通安全教育普及協会  
○チャイルドシートの取付方法

講師：(一財) 日本交通安全教育普及協会

④参加者 252名

### (3) 高校生向け自転車安全教育インストラクター認定及び更新講習会の開催

高等学校における自転車安全教育の充実を目的として、自動車教習所指導員を対象に、高校生向け自転車安全教育に関する効果的な指導手法や知識を習得するための講習会を、eラーニングおよびZoomを活用したオンライン形式で開催した。

講習会受講後、一定の要件を満たした者には、当協会より「高校生向け自転車安全教育インストラクター」の認定証を交付した。また、1事業所に認定者が3名以上在籍し、適正な活動を行う旨の誓約書を提出した事業所については、「高校生向け自転車安全教育団体」として認定した。

さらに、認定インストラクターの指導力向上を目的として、中級および上級の認定更新講習会もオンラインにて実施した。

#### 【認定講習会】

①開催日 eラーニング視聴期間：令和6年10月10日(木)～11月7日(木)

Zoom講習会：令和6年11月8日(金)10:00～17:30

②実施方法 eラーニング方式とZoomを活用したオンライン講習会

③内 容 【eラーニング(事前視聴)】

○講義1「高等学校における交通安全教育の現状と進め方について」他

○講義2「高等学校における自転車教育事例紹介」

○講義3「自転車の交通ルールについて」

○実技「屋外で実施する自転車教育の手法」

#### 【Zoom講習会】

○講義4「自己理解を促すためのディスカッション手法(理論)」

○講義5「自己理解を促すためのディスカッション手法(実演)」

○協議「ディスカッション手法を活用した指導案作成」「実演リハーサル」

○実演「ディスカッション手法を活用した実演発表」

○オンラインによる筆記テスト

○課題：事故再現実演の動画を収録して提出(LINE等を活用)

④講師 東北工業大学 教授 小川 和久 氏

(株)ムジコ・クリエイト東京営業所 所長 野藤 智 氏

(一財) 日本交通安全教育普及協会

⑤参加者 29名

#### 【中級更新講習会】

①開催日 eラーニング視聴期間：令和6年6月7日(金)～7月5日(金)

Zoom講習会：令和7年7月5日(金)10:30～17:00

②実施方法 eラーニングとZoomを活用したオンライン講習会

③内 容 【eラーニング(事前視聴)】

○講義1「高等学校の交通安全教育の現状」

○講義2「高等学校における自転車教育事例紹介」

○講義3「アイスブレイクの実践(他己紹介、コーチング理論)」

○講義4「リスニング(アクティブリスニング理論)の技法」

#### 【Zoom講習会】

○講義5「質問の技法(オープンクエスチョン、クローズドクエスチョン)」

- 講義6「振り返り（スケールクエスチョン）」
- 協議1「コーチング技法展開協議（事故はなぜ起きた？）」
- 協議2「実践を想定したシナリオ案作成」
- 実演「コーチング技法実践（グループディスカッションの展開）」

④講師 (株)ムジコ・クリエイト東京営業所 所長 野藤 智 氏  
(一財) 日本交通安全教育普及協会

⑤参加者 6名

【上級更新講習会】

①開催日 eラーニング視聴期間：令和6年6月10日（月）～7月8日（月）  
Zoom講習会：令和6年7月8日（月）10:30～16:30

②実施方法 eラーニングとZoomを活用したオンライン講習会

③内 容 【eラーニング（事前視聴）】

- 講義1「コーチングメソッド(マイクロコーチング等)を活用した教育手法」
- 講義2「高等学校の交通安全教育の現状」
- 講義3「高等学校における自転車教育事例紹介」

【Zoom講習会】

- 活動報告「高等学校、その他での交通安全教育活動事例発表」
- 講義4「コーチングメソッド(マイクロコーチング等)を活用した教育手法（応用編）」
- 協議1「実践を想定した指導案・シナリオ案作成」
- 実演「マイクロコーチング技法を活用した交通安全教室の実演発表」

④講師 (株)ムジコ・クリエイト東京営業所 所長 野藤 智 氏  
(一財) 日本交通安全教育普及協会

⑤参加者 13名

## 2. 交通安全教育指導者等支援活動

### (1) 学校における交通安全教育に関する協議会の開催

都道府県教育委員会、政令指定都市および中核市、東京都区市町村の各教育委員会における交通安全教育担当者等を対象に、今後の交通安全教育の方向性を探るとともに、その成果の普及を図ることを目的として、文部科学省の後援のもと、オンラインによる協議会をシンポジウム形式で開催した。

本協議会では、基調講演やショートプレゼンテーションを通じて、児童生徒の交通事故の実態を踏まえた重要課題や先進的な取組の紹介を行った。

また、3つのテーマに基づくパネルディスカッションを実施し、参加者間での意見交換を行った。

①開催日時 令和6年7月17日（水）13:00～16:50

②実施方法 Zoomを活用したオンライン開催

③内 容 ○基調講演「これから求められる交通安全教育」

講師：文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課  
交通安全教育推進室 交通安全教育調査官 木下 史子 氏

○ショートプレゼンテーション

1. 『気づき・感じ・伝え合う』ことを大切にされた安全教育の日常化 凡事徹底・凡事一流」

高知県土佐市教育研究所所長（前土佐市立蓮池小学校校長）吉門 直子 氏

2. 「中学生の自転車運転時の心の葛藤に焦点をあてた教育プログラムと DX 教材開発」  
東北公益文科大学 学長 公益学部 教授 神田 直弥 氏
3. 「高校生の自転車乗車用ヘルメット着用を推進し安全意識向上を図る取組の充実」  
群馬県教育委員会健康体育課  
千葉県教育庁教育振興部児童生徒安全課  
東京都教育庁指導部 安全教育担当
4. 「ヒヤリハット体験を活かしたデジタル安全マップと STEAMS 教育」  
埼玉県さいたま市立東浦和中学校 学校地域連携コーディネーター（前さいたま市立道祖土小学校校長） 板東 浩之 氏
5. 「子供たちが自ら主体的に考え学べる交通安全 Web 教材」  
（一財）日本交通安全教育普及協会
  - パネルディスカッション  
テーマ「自分事として捉え行動の変容につなげる交通安全教育」  
コーディネーター：岩手県立図書館館長 岩手大学地域防災研究センター  
客員教授 森本 晋也 氏
  - ブレイクアウトルームを使用した 情報交換  
テーマ「自転車乗用中のヘルメット着用向上に向けた取組状況について」
  - 全体講評  
岩手県立図書館館長 岩手大学地域防災研究センター客員教授 森本 晋也 氏  
文部科学省 総合教育政策局 安全教育調査官 木下 史子 氏

④参加者 60名

## (2) オンラインを活用した全世代向け交通安全教育の拡充

（一社）日本損害保険協会の自賠責運用益拠出事業による補助を受け、令和3年度から令和5年度までの3ヶ年にわたり、学校における交通安全教育の機会確保を目的として、非対面・非接触型の新たな交通安全教育手法（オンライン交通安全教育）の企画・検討を行うとともに、オンライン交通安全教育用プラットフォームおよびコンテンツの開発を実施した。

令和6年度からは、新たな3ヶ年事業として、学校向けプラットフォームの機能・コンテンツのさらなる充実を図りながら、モデル事業を引き続き実施するとともに、一般および高齢者向けの新たなプラットフォームを開設し、それに対応する機能・コンテンツの作成を行った。

さらに、モデル事業の継続実施を通じて得られた成果を踏まえ、内容の改善・修正を行うとともに、利用促進を目的として「学校における交通安全教育に関する協議会」等の場において、本事業およびその活用事例の紹介を実施した。

### 【モデル事業一覧】

#### ○学校向け

- 令和6年4月10日（水）11:10～11:55 静岡聖光学院中学校・高等学校 中学1～高校2年生
- 令和6年5月23日（木）11:00～12:00 藤枝明誠高等学校 高校1～3年生
- 令和6年5月27日（月）15:30～16:20 愛知県立豊明高等学校 高校1年生
- 令和6年6月10日（月）15:00～15:50 静岡県立藤枝東高等学校 高校1年生
- 令和6年6月12日（水）13:40～14:30 さいたま市立川通中学校 中学1年生
- 令和6年7月9日（火）10:55～11:45 叡明高等学校 高校1年生
- 令和6年9月27日（金）8:50～14:20 三重県立亀山高等学校 高校1年生

#### ○一般向け

- 令和6年10月30日（水）10:00～12:00・13:30～15:30 高齢者向け自転車交通安全教室

(3) 講師派遣の実施

自治体や関係機関・団体、学校、民間企業等からの要請を受け、児童・生徒から成人・高齢者まで、幅広い対象に応じた交通安全講習会や啓発イベントに、職員等を講師として派遣した。加えて、学校統合に係る検討部会等においても、専門的立場から意見を述べる役割として参加した。

令和6年度は、各地の教育委員会や自治体、民間団体が主催する講習会や研修、講演会等で多数の講師派遣を行い、継続的な学習支援や地域の課題に即した交通安全啓発に取り組んだ。

また、受講者が自宅や職場などから参加できるよう、Zoom等を活用したオンライン講習も実施し、時間や場所の制約にとらわれない柔軟な講習体制を構築した。

さらに、広く交通安全の重要性を社会に発信する取り組みとして、有識者として職員がテレビ番組に出演するなど、メディアを通じた情報発信にも努めた。

(4) 地域提案型交通安全支援事業の実施

内閣府からの委託を受けて、地域における自主的な交通安全活動を推進することを目的に、地方公共団体から提案されたプログラムを2か所で実施した。

【青森県会場】

- ①事業名 今日でも無事でいてほしい  
十和田市セーフコミュニティ 交通安全フェスタ 2024
- ②日時 令和6年10月20日(日) 11:00~15:30
- ③会場 イオンスーパーセンター十和田店(店舗内イベント広場周辺及び駐車場)
- ④参加者 十和田市民等 978名
- ⑤内容 **【屋内】** 青森県警察音楽隊、パトカー・白バイ展示、子ども安全免許証交付  
カプセルトイ(反射材)、セーフコミュニティ各部会による広報啓発  
**【屋外】** スケアード・ストレイト、シートベルトコンビンサー、  
青森県警察ふれあい号

【山口県会場】

- ①事業名 シャンと乗っちゃリ!交通安全自転車教室
- ②日時 令和6年10月3日(木) 10:00~15:00
- ③会場 宇部自動車学校
- ④参加者 山口県民(主に高齢者)、県内の交通ボランティア等 170名
- ⑤内容 自転車条例の概要説明、山口県警察音楽隊、交通安全落語、  
参加・体験型交通安全教室(ヘルメットの落下実験、バーチャルサイクリング、  
自転車シミュレータ、反射材視認性実験、自転車保険情報コーナー、  
シートベルトコンビンサー)、スケアード・ストレイト

### 3. 交通安全教育啓発活動

(1) 高齢運転者及び自転車運転者の交通事故防止を目的とした移動型交通安全啓発活動の実施

J A共済連からの委託を受けて、地域で実施されるイベント等に自動車及び自転車の交通事故防止を目的に、交通安全教育シミュレータ等を搭載した車両及び指導員を派遣した。

令和6年度は、自転車シミュレータ体験車(すまいる号)のステージ部分を新たに改修するとともに搭載していた自転車シミュレータを当協会が開発した新型機器に一新した。

- ①自動車シミュレータ体験車(きずな号) 派遣回数 55回 体験者数 1,608人
- ②自転車シミュレータ体験車(すまいる号) 派遣回数 60回 体験者数 4,727人

(2) 幼児・児童・生徒及び高齢者を対象にした歩行者向け交通安全講習会の実施

東京都からの委託を受けて、幼児・児童・生徒とその保護者及び高齢者を対象に「歩行者向けの交通安全教育シミュレータ」を活用した講習会や啓発イベントを実施した。

- ①幼児・児童・生徒向けプログラム  
実施回数 133 回 都内の小・中・高等学校 131 校、幼稚園・保育園 2 園  
参加者数 10,761 人  
○交通安全クイズ（信号の意味、飛び出しの危険）  
○歩行シミュレータ実技体験（横断歩道の渡り方等、危険予測学習）  
講師 (一財) 日本交通安全教育普及協会 等
- ②高齢者向けプログラム  
実施回数 9 回 参加者数 395 人  
○認知・判断力診断  
○歩行シミュレータ実技体験（道路の横断の仕方等、危険予測学習）  
講師 (一財) 日本交通安全教育普及協会 等
- ③啓発イベント  
実施回数 12 回 参加者数 1,680 人  
プログラム ○歩行シミュレータ実技体験（対象者に合わせてコース選定）  
指導者 (一財) 日本交通安全教育普及協会 等

(3) 児童・生徒及び高齢者を対象にした自転車交通安全教室の実施

東京都からの委託を受けて、主に児童・生徒とその保護者及び高齢者を対象に「自転車の交通安全教育シミュレータ」を活用した教室や啓発イベントを実施した。

- ①児童・生徒向けプログラム  
実施回数 182 回 都内の小・中・高等学校 182 校 参加者数 19,392 人  
○交通ルールに関する講義（自転車安全利用五則、ヘルメットの着用、点検の重要性、事故発生時の義務）  
○自転車シミュレータ実技体験（交差点の通行方法等、危険予測学習）  
講師 (一財) 日本交通安全教育普及協会 等
- ②高齢者向けプログラム  
実施回数 10 回 参加者数 297 人  
○交通ルールに関する講義（自転車安全利用五則、非注意性盲目）  
○自転車シミュレータ実技体験（交差点の通行方法等、危険予測学習）  
講師 (一財) 日本交通安全教育普及協会 等
- ③啓発イベント  
実施回数 33 回 参加者数 3,199 人  
プログラム ○自転車シミュレータ実技体験（対象者に合わせてコース選定）  
指導者 (一財) 日本交通安全教育普及協会 等

(4) 自転車安全利用講習会の実施

東京都武蔵野市からの委託を受けて、一般市民を対象に、自転車事故の発生状況や安全な乗り方等についての講義を内容とする自転車の安全利用のための講習会を実施した。

令和6年度は、合計39回2,912名が受講し、講習会終了後に自転車安全利用認定証の交付、反射材配付、市民にはTSマーク助成券及びヘルメット購入助成券の交付等を行った。また、オンライン形式やオンラインと会場を同時に実施するハイブリッド方式での講習会も実施した。

東京都武蔵野市以外にも、東京都調布市において、市職員や一般市民を対象とした自転車安全利用講習会を開催したほか、台東区において同様の講習会を開催するにあたり、講師派遣を行った。

(5) 緊急時の対応に関する啓発活動の実施

日本保安炎筒工業会との連携・協力により、交通事故・二次災害等の減少に資することを目的として、発炎筒の使用方法や性能、非常時等における対処方法を普及啓発するためのポスターを5,000枚制作し、全国の都道府県、政令指定都市、警察本部、指定自動車教習所、日本自動車連盟各支部、各高速道路（株）等に配布した。

(6) 国際協力による教育普及活動の実施

令和6年度においては、独立行政法人国際協力機構（JICA）からの依頼を受け、バングラデシュ国ダッカ交通安全プロジェクトにおける日本研修において、「日本における年代別の交通安全教育の取り組み」に関する講義および交通安全教育シミュレータの体験実習を実施した。

また、ダッカ市内に設立が予定されていた交通安全教育センターにおける当協会の交通安全教育シミュレータの導入については、7月に発生した学生によるデモ活動の影響を受け、実施が延期となった。

(7) 関係機関と連携した交通安全教育啓発活動の推進

交通安全教育の普及を目的に、下記のとおり、関係機関と連携した活動を推進した。

①シートベルト・チャイルドシート着用推進協議会の事務局

関係省庁、団体等官民一体となって国民のシートベルト及びチャイルドシートの着用推進啓発活動を行っている「シートベルト・チャイルドシート着用推進協議会」の活動に協力するとともに、同協議会の事務局を担当した。

また、同協議会における「着用推進広報活動」として、「体格に合わせたシートベルト・チャイルドシートの使用」啓発チラシの制作を行った。

②交通安全フォーラム推進協議会の事務局

国民の交通安全意識の高揚と定着を目的とした交通安全フォーラム（内閣府及び開催地の都道府県・市主催、関係省庁後援、関係団体協賛）の推進協議会の活動に協力するとともに、同協議会の事務局を担当した。

日 時 令和6年9月5日（木） 13:15～17:00

場 所 鹿児島県庁講堂（鹿児島県鹿児島市）

テ ー マ 子どもと高齢者の交通事故防止

内 容 ○基調講演

九州大学大学院 システム情報科学研究院 教授 志堂寺 和則 氏

○パネルディスカッション

宮永 利文 氏（鹿児島県警察本部交通部 参事官）

眞竹 龍太 氏（株式会社九州経済研究所企画戦略部部長・志学館大学客員教授）

宮田 美恵子 氏（NPO 法人日本こどもの安全教育総合研究所 理事長）

岩越 和紀 氏（NPO 法人高齢者安全運転支援研究会 理事長）

③全国交通安全運動への参加

官民一体となって実施している「春・秋の全国交通安全運動」に協賛団体として参加し、ポスターの印刷・発送等の協力を行った。

④交通安全ファミリー作文コンクールの実施

警察庁及び関係団体との共催により、「我が家の交通安全」をテーマにして各家庭における交通安全に関する話し合いを進めることを通じ、国民1人1人の交通安全意識の高揚を図り、交通ルールの遵守と交通マナーの向上に資することを目的とした交通安全ファミリー作文コンクール（46回目）を実施した。

令和6年度は、小学生1,253点、中学生3,307点、合計4,560点の応募となった。

## II 調査研究活動

効果的な交通安全対策、事業の企画・実施に資することを目的として、令和6年度は、「さいたま市の中学校1・2年生を対象としたデジタルマップ作成を通じた交通安全意識向上」及び「新潟大学との共同研究による効果的な世代別交通安全教育手法」について調査を実施した。

### (1) デジタルマップ作成による、交通安全意識向上等の調査

対 象	さいたま市立川通中学校 1年生 2クラス 70名 (対面授業) さいたま市立与野西中学校 2年生 5クラス 153名 (オンライン授業)
日 時	令和6年6月10日(月)・10月7日(月) 自転車交通ルール等の事前アンケート 令和6年6月12日(水) 自転車シミュレータを使った危険予測学習 令和6年10月8日(火) ヒヤットとした危険な行動要因を
内 容	○川通中学校では、グループで地域の危険箇所をフィールドワークで確認 ○オンライン掲示板アプリ「Padlet」を使って危険箇所をウェブ地図上にマーク ○危険箇所の集中場所を可視化 ○作成したマップのQRコードを学校だよりに掲載し、保護者と情報共有 ○与野西中学校では、令和5年度部実施した自転車シミュレータを活用した危険予測学習での内容を活かし、令和6年度は、生徒の「ヒヤリ・ハット」体験をもとに危険箇所をデジタルマップ化
成 果	地域との情報共有がしやすくなり、生徒の安全意識も向上

### (2) 新潟大学との共同研究による効果的な世代別交通安全教育手法の調査

内 容	①交通安全教育教材・機材を活用した効果的な世代別の交通安全教育手法開発及び評価のための既存データ分析交通安全教育に関するデータ等の分析をもとにした交通安全教育シミュレータの開発 ②令和7年度の共同研究に関する協議
-----	---

## III 情報収集提供活動

主として行政や教育現場、地域や職場において交通安全教育に携わっている担当者等に対し、交通安全教育や啓発活動を推進する上で有益かつ実践的な情報を提供するとともに、当協会の活動内容やタイムリーな交通安全情報等を広く国民一般に向けて発信することを目的として、下記のとおり、2種類の活動を実施した。

### 1. 月刊誌「交通安全教育」の編集・刊行

交通安全に関する今日的な課題に対応した多彩な執筆者による特集記事や、交通安全の指導方法・具体的な教育指導事例などを連載記事として提供する月刊誌「交通安全教育」紙書籍版及び電子書籍版を毎月編集・刊行した。

さらに、昨年度から開始した専用サイトからパソコンやスマートフォンで閲覧できる、幼児・児童・生徒に関連する記事等をピックアップした学校教育者向けの電子書籍版を引き続き刊行した。

### 2. ホームページによる情報の発信及び収集

当協会ホームページについて、令和7年度前半の公開を目指してリニューアルを開始し、デザイン刷新とともに、情報整理と更新性向上のためサイト構造の見直しを行った。

他にも、フェイスブック、X(旧ツイッター)などのSNSを積極的に活用し、交通安全イベント及び研修会等の周知や交通安全教育、各種教材・教具等に関する情報を広く発信するとともに、双方向的に全国各地で行われている交通安全の取り組み等の収集に努めた。

## IV 教材の制作・普及事業

### 1. 交通安全教育啓発資料・機材の開発及び普及

当協会が制作、開発している交通安全教育啓発資料・機材について、交通事故の経年変化や道路交通法の改正等に対応して、適宜、改訂、新規教材の刊行を行うとともに、全国の自治体、関係機関・団体等に対する訪問活動やホームページ・SNS・DM等の媒体を活用した広報活動を通して、広く周知を図り、各種の交通安全活動を効果的に進める上での有効活用を普及促進した。

さらに、昨年度より開発を進めてきた交通安全教育シミュレータについては、自動車・自転車・歩行者版の3種類が完成し、三重県交通安全教育センターをはじめとする関係機関に計12台を納入した。

### 2. 教育啓発資料の監修・指導等の実施

関係機関・団体及び民間企業等が企画・制作する交通安全啓発用資料・教材に対して、要請に応じて企画・監修・指導等を行った。

### 3. 児童及び自転車通学者向け高視認性安全服認証及び推奨制度の普及

「子どもたちを交通事故から守り、ドライバーを加害者にしない」ことを目的として、ドライバーから児童や自転車通学者の視認率を高めるための高視認性安全服の着用普及を図るために、「児童及び自転車通学者向け高視認性安全服」に対して交通事故防止の観点から基準を設け、基準に適合した製品を認証するとともに、その証として認証ラベルを発行した。

- ① 認証・推奨数 認証件数 7件、推奨件数 15件（令和7年3月31日現在累計）
- ② ラベル発行数 認証ラベル 24,582枚、推奨ラベル 259,760枚（令和7年3月31日現在累計）

## V 基本財産の運用

令和5年11月に売却した居住用マンション「パルフェ北新宿」に代わる新たな収益物件として、令和6年12月に国領の共同住宅「トレゾール」を購入し、その土地及び建物を協会の基本財産に繰り入れた。

当協会の健全な運営を進めるためには、安定した財政基盤が不可欠であることから、新宿一丁目の事務所ビル「TSG御苑ビル」について必要な修繕を行いつつ賃貸するなど、基本財産等の運用に関する事業を引き続き実施し、その運用益の確保に努めた。

## VI 会議の開催

以下のとおり、理事会、評議員会等を開催した。

### 1. 理事会

#### (1) 通常理事会

期日 令和6年6月5日（水）

会場 （一財）日本交通安全教育普及協会 会議室（オンライン併用開催）

議題	第1号議案	令和5年度事業報告書（案）の承認について
	第2号議案	令和5年度貸借対照表及び正味財産増減計算書（案）の承認について
	第3号議案	令和5年度公益目的支出計画実施報告書（案）の承認について
	第4号議案	役員候補者の評議員会への提案について
	第5号議案	定時評議員会の開催（案）について
	第6号議案	理事と当協会との取引（利益相反取引）の承認について

第7号議案 顧問・相談役・参与の委嘱（案）について

第8号議案 代表理事の職務執行状況の報告について

(2) 臨時理事会（書面による決議）

期日 令和6年6月27日（木）

議題 第1号議案 理事長及び専務理事の選定に関する件

(3) 臨時理事会（書面による決議）

期日 令和6年11月20日（水）

議題 議案 「取引の制限」（利益相反取引）の承認に関する件（定款第32条関係）

(4) 通常理事会

期日 令和7年3月18日（火）

会場 （一財）日本交通安全教育普及協会 会議室（オンライン併用開催）

議題 第1号議案 令和7年度事業計画（案）の承認について

第2号議案 令和7年度収支予算（案）の承認について

第3号議案 旅費規程の改正について

第4号議案 常勤理事の報酬・職員給与規程・専門職員給与規程の改正について

第5号議案 代表理事の職務執行状況の報告について

## 2. 評議員会

(1) 定時評議員会

期日 令和6年6月27日（木）

会場 （一財）日本交通安全教育普及協会 会議室（オンライン併用開催）

議題 第1号議案 令和5年度事業報告について

第2号議案 令和5年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認について

第3号議案 令和5年度公益目的支出計画実施報告書について

第4号議案 評議員の選任について

第5号議案 役員の選任について

## 3. その他

ほぼ1か月に1回の頻度で、代表理事および事務局による定例会議を開催し、業務の執行状況の確認や課題の共有、今後の方針について連絡・協議を行った。